



Bathroom 2005 42x42 cm Acrylic on Canvas

Sumito Sakakibara + Taichi Nakao

**榊原澄人（アニメーション、平面）+中尾太一（詩）**

子どもたちの霊歌 "Spiritual Songs of the Children"

**2025.5.31(Sat) — 6.21 (Sat)**

日、月休廊 \*6/3（火）のみ休廊

Closed on Sunday, Monday and June 3<sup>rd</sup>.

12 : 00 — 19 : 00

会場では榊原澄人アニメーション作品「É in Monition」（2013）、「飯縄縁日」（2021）の上映もございます。

The gallery will also feature screenings of Sumito Sakakibara's animation works *É in Monition* (2013) and *Iizuna Fair* (2021).

**YUKI-SIS**

東京都中央区日本橋茅場町 1-1-6 小浦第一ビル 2B 03-5542-1669

info@yuki-sis.com <http://yuki-sis.com>

YUKI-SIS では、5月31日（土）－6月21日（土）榊原澄人+中尾太一「子どもたちの霊歌 – Spiritual

Songs of the Children – ” を開催いたします。



子どもたち Children 2025 42 x 42 cm Acrylic on Canvas

**榊原澄人**は1980年北海道・十勝生まれ。1996年、単身渡英。文化庁海外派遣生を経て2004年RCA（英国王立芸術大学院）アニメーション科博士課程修了。帰国後は、長野県を制作の拠点としています。

**文化庁メディア芸術祭大賞受賞作品「浮楼」、DOMANI 展（2015）にて大絶賛を浴びた「É IN MOTION No.2」、そしてスパイラル 30 周年記念展「スペクトラム」で発表された「Solitarium」をはじめとするアニメーション映像作品**で知られ、美術館やアートフェスティバル等での上映、そして海外の多数の映画祭で作品が招待上映、受賞多数。また2021年制作された「**飯縄縁日 -Iizuna Fair-**」は、2021年長野県立美術館改装後初のこけらおとしの展覧会として発表され、常設展示として現在も上映されています。同作では世界中のアニメーションフェスティバルで数々の受賞、招待を受け、その才能が世界で注目されるアニメーション作家です。

詩人の中尾太一は2024年『ルート29、解放』が森井勇佑監督、綾瀬はるか主演で映画化。2025年詩部門で最も優れた作品集に顕彰する権威ある賞である、**詩歌文学館賞**を『フロム・ティンバーランド』で受賞。現代詩歌のトップを走る詩人です。

3年ぶりの展覧会となる今展では、榊原澄人が現在制作中の新作アニメーション「子どもたちの霊歌—

Spiritual Songs of the Children」の原画およびドローイングを、詩人の中尾太一の美しい詩とともに展示致します。

また、アニメーション作品「飯縄縁日 -Iizuna Fair-」「É IN MOTION No.2」も上映致します。



林の中で Within the woods 2025 42x42 cm Acrylic on Canvas



庭 Garden 2025 42x42 c m Acrylic on Canvas



水差し Water Jug 2025  
18x18 c m Acrylic on Canvas



国道38号線 Route38 2025

42x42cm Acrylic on Canvas



綾線 Woven Lines 2025  
42 x 42 cm Acrylic on Canvas



## アニメーション Animation 【É in Motion】 2013

作家の記憶の中に潜在するイメージや、言葉と沈黙の間を漂うイメージを通して、この作品はその想いを 360 度の円形スクリーン上で描写し、呼び起こそう制作されました。スクリーンには、作家が生まれ育った北海道の風景や情景、そして北海道の先住民族であるアイヌの神話に基づいた寓話的なイメージが映し出されます。作品内のいくつかの要素は互いに影響を与え合いながらも、それぞれが独立したループとして存在し、複雑で多層的な時間の流れを形成しています。

またこの作品は、観る者がイメージの断片を自由に結びつけ、自ら物語を構築することを許す神話的な構造を持っています。360 度の円形スクリーンに映し出されるのは、歪んだ時間（同時性／リゾーム）と空間（フラクタル）が不調和かつ雑多に交錯する関係性であり、失われた世界と、これから訪れる世界を静かに見つめる作品なのです。

Through series of images that are latent within the artist's memories and images that are drifting between words and silence, the works tries to portray and recollect emotions in a 360 degree circle-scope screen. The picture displays scenery and landscapes of Hokkaido where the artist was born and raised along with images of allegory based on Ainu-the indigenous people of Hokkaido-mythology. Some of the elements in the work are affected by the others, creating complex and multiple time sequences while maintaining their loops independently. The work also represents mythological structure in which the viewers are allowed to associate fragments of images and construct stories by themselves. What you would find on 360 degree circle-scope screen is an incongruous and motley relation of warped time (synchronism/ rhizome) and space (fractal), a work that quietly observes the world that is about to be lost and the world that is forthcoming.



## アニメーション Animation 【飯縄縁日—Iizuna Fair-】 2021 12 min

長野県・飯綱山麓に居を構える作家本人の観る世界、Inner Landscape (内在的原風景)を北信の風景を織り交ぜながら描き出す一大縁起絵巻。各要素が全体運動の中で互いに溶け合い、時空やヒエラルキーといった概念を転覆させるカーニバル作品。

A grand *emaki* (picture scroll) of origin myths depicting the world as seen by the artist—who resides at the foot of Mt. Iizuna in Nagano Prefecture—interwoven with the landscapes of the Hokushin region and expressing an “Inner Landscape” (inherent primal scenery). Each element merges within the overall motion of the work, creating a carnivalesque piece that subverts conventional notions of time, space, and hierarchy.



## 榎原澄人 Sumkito Sakakibara

1980 年北海道・十勝生まれ。1996 年、単身渡英。文化庁海外派遣生を経て 2004 年 RCA（英国王立芸術大学院）

アニメーション科博士課程修了。2006 年文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞受賞。

英国アカデミー賞短編アニメーション部門・ノミネート。国際漫画アニメフェスティバルグランプリ受賞。

2021 年「飯縄縁日」が長野県立美術館常設展示に収蔵。2022 年同作オタワ国際アニメーション映画祭で最優秀ノンナラティブ賞受賞。Weird Market 映画祭最優秀賞受賞。

国立新美術館、清須市はるひ美術館、名古屋芸術大学アート&デザインセンター、長野県立美術館、おぶせミュージアム、大阪万博関連事業 中之島パビリオンオンフェスティバル棟、国内外で映像祭、美術館での展示、上映多数。2025 年 6 月には、フランス・アヌシー国際アニメーション映画祭に招待予定。

Born in 1980 in Tokachi, Hokkaido. In 1996, moved to the UK alone. After being selected for the Agency for Cultural Affairs' Overseas Study Program for Artists, completed a Ph.D. in Animation at the Royal College of Art (RCA) in 2004.

In 2006, received the Grand Prize in the Animation Division at the Japan Media Arts Festival.

Nominated for the British Academy Film Awards (BAFTA) in the Short Animation category, and awarded the Grand Prix at the International Manga and Anime Festival.

In 2021, *Iizuna Ennichi* was added to the permanent collection of the Nagano Prefectural Art Museum.

In 2022, the same work received the Best Non-Narrative Award at the Ottawa International Animation Festival, as well as the Grand Prize at the Weird Market film festival.

The artist has held numerous screenings and exhibitions both in Japan and abroad, including at The National Art Center, Tokyo; Kiyosu City Haruhi Art Museum; Nagoya University of the Arts Art & Design Center; Nagano Prefectural Art Museum; Obuse Museum; and the Pavilion On Festival Hall, part of the Osaka Expo-related projects.

The artist is also scheduled to be invited to the Annecy International Animation Film Festival in France in June 2025.



アニメーション“É in Motion”より

## 中尾太一 Taichi Nakao

1978 年鳥取県若桜町生まれ。日本大学芸術学部中退。18 歳のころ、伊藤比呂美らの詩に触れ、詩作を始める。  
2006 年思想社 50 周年記念現代詩新人賞受賞。2007 年『数式に物語を代入しながら何も言わなくなった F に、掲げる詩集』を刊行。2019 年『ナウシカアの花の色と、〇七年（ゼロナナ）の風の束』で鮎川信夫賞受賞。  
2024 年『ルート 29、解放』が森井勇佑監督、綾瀬はるか主演で映画化。  
2025 年『フロム・ティンバーランド』で詩歌文学館賞受賞。

Born in 1978 in Wakasa Town, Tottori Prefecture. Withdrew from Nihon University College of Art.  
Around the age of 18, began writing poetry after encountering the works of poets such as Hiromi Itō.  
In 2006, received the New Poet Prize commemorating the 50th anniversary of Shisōsha Publishing.  
In 2007, published the poetry collection *To F, Who Stopped Speaking While Substituting Stories into Equations*. In 2019, awarded the Nobuo Ayukawa Prize for *The Color of Nausicaä's Flowers and the Bundle of Wind from '07*.  
In 2024, *Route 29, Liberation* was adapted into a feature film directed by Yūsuke Morii and starring Haruka Ayase. In 2025, received the Shika Bungakukan (Poetry and Literature Museum) Prize for *From Timberland*.

### 【制作ノート】

榎原澄人の今回の展示『子どもたちの霊歌』は同名のアニメーション制作を念頭に描かれた。だから、展示されている九枚の絵はそれじたいで完結するものではないけど、アニメーションのキーになる場面ではあると思う。それらの場面＝絵を使って、来たるべき作品とは別の世界を作るという試みに招き入れられ、テキスト制作を担うことになった。はじめに「家」ではなく、「庭」を造るような作業になったのかもしれない。そこで遊んでみたり、これから建てられる家を想像したりすることは楽しかった。とはいえ、気楽な作業だったわけではない。これまでの榎原の作品が持つ霊性としかいいえなものを一秒でも長く想像し続けること、じぶんの心のなかに留めておくことが必要だった。榎原の作品の「秘密」に触れる内面的な時間の緊張を、榎原本人が感じているような次元まで、ひとときのあいだ延長させることが求められたように思う。それは九枚の絵を見ることよりも大切なことだったかもしれない。

榎原の感性に接近するために（もちろん絵についての榎原の話もうんと聞いたが）ひとつのきっかけを作った。制作中の榎原と同じ音楽を

聴くこと。やや安易な方法かもしれないが、今回はうまくいったように思う。榊原澄人という稀有な作家と十年以上つきあっているの、その音楽の何をかれが聴き、何をかれが見ているのか、ピンとくるものがあつた。音楽のなかを泳ぐ魚を見つける作業、といえはいいのか。その魚が僕の目の前を通り過ぎていく数秒の間に起こった現象が言葉になった。必ずしも榊原の絵と意味的に一致するものではなかったけど、それと交叉するための一点は持つことができたように思う。

今回の展示でユニークなのは、書かれたテキストの世界をもとに（榊原ではなく）僕が絵の並びを構成し、テキストを都度修正しながら絵にあてていったという点だろう。テキストと絵のあいだにある抽象的な領域をそのままトロッコに乗せて、レールのうえを滑らせていく、というイメージだった。すると、作品は勝手に動き出す。このレールが、これから建てられる「家」の玄関に繋がる必要はなかった。とはいえ、ちょっとだけトロッコを押してやる必要もある。そのために「わたし」という強めの一人称を使用した。むろん榊原本人を指すものではない。さきほどいった「抽象的な領域」から発生する一つの視線と主張である。「見て」とそれはいう。このセリフは榊原の絵がその奥底から発しているささやかな声のようにも思える。その声のために、僕はこれまでのかれの作品から「瞳」をそらせることができないし、これからもそうだろう。

中尾太一（詩人）

## 榊原澄人 略歴

- |       |                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1980年 | 北海道十勝生まれ                                                                                                      |
| 1996年 | 単身渡英                                                                                                          |
| 1998年 | Camberwell College of Arts : Foundation Course 修了                                                             |
| 2001年 | Kingston University: Communication Design 科 BA 課程修了                                                           |
| 2003年 | 文化庁新進芸術家海外研修員（ロンドン、イギリス）<br>ロイヤル・テレビジョン・ソサエティー賞：学生アニメーション部門英国全国大会一位                                           |
| 2004年 | RCA（英国王立芸術大学院）：アニメーション科博士課程修了                                                                                 |
| 2005年 | 英国アニメックス学生アニメーションフェスティバル大賞受賞<br>デジタルアートアワード受賞                                                                 |
| 2006年 | 平成17年度第9回文化庁メディア芸術祭アニメーション部門大賞受賞<br>英国アカデミー賞短編アニメーション部門・ノミネート<br>国際漫画・アニメフェスティバルグランプリ                         |
| 2008年 | グループ展「The Echo」（ZAIM/横浜）<br>「開かれた窓」（広島市現代美術館）                                                                 |
| 2009年 | Incidental Affairs（Suntory Museum/大阪）                                                                         |
| 2010年 | Re:membering（Gallery Loop Seoul Korea / 韓国）<br>Around the world in 80 Hours（イギリス）<br>Liverpool Biennale（イギリス） |
| 2013年 | Restart（YUKI-SIS/東京）<br>Media Art Festival（東京ミッドタウン/東京）<br>Domani 明日展（国立新美術館/東京）                              |
| 2014年 | 個展 “Ê IN MOTION”（YUKI-SIS/東京）                                                                                 |
| 2015年 | <b>スパイラル 30 周年記念事業展覧会</b><br><br>「スペクトラム ―いまを見つめ未来を探す」（スパイラル/東京）                                              |
| 2016年 | 個展 “RAPOLLO”（YUKI-SIS/東京）                                                                                     |
| 2016年 | 個展 “Eternal Metamorphoses”（清須市はるひ美術館 / 愛知）                                                                    |

- 2017年 KENPOKU ART 茨城県北芸術祭
- 2017年 六甲ミーツアート芸術散歩 2017
- 2016年 個展 榊原澄人展 「榊原澄人の燈幻郷 -永遠の祭り-」  
(旧・長野県信濃美術館主催/ 長野)
- 2017年 個展「記憶の羅針盤」(名古屋芸術大学アート&デザインセンター / 愛知)
- 2018年 個展「MYTH IN THE BACKYARD」(YUKI-SIS/東京)
- 2021年 「飯縄縁日・Iizuna Fair」(新美術館みんなのアートプロジェクト/ 長野県立美術館常設展示)
- 2022年 「S.R.Z 手回し式パラパラ漫画 展」 "The Emergence of Synchronic Recipro- Inclusive Zone"  
キョウジテキソウゴホウセツキョウイキノシュツゲン  
共 時的相互包摂境 域ノ出現
- 2024年 個展 izuna Anachronicle イイツナアナクロニクル〜杜の時間〜 (art space kimura ASK?/ 東京)
- 2025年 「アニメ・パーソナル」 中之島パビリオンフェスティバル 2025  
(大阪大学中之島芸術センター)

## 飯縄縁日 -Iizuna Fair- 受賞歴 / Awards:

Nagano Art Museum: Video Installation exhibition/ permanent collection

T-Short Festival: Best of the best

Big Cartoon Festival 2021: Best Non-Narrative Animated Film

Happy Valley Animation Festival: Winner, Experimental Animation

XV. Istanbul International Architecture and Urban Films Festival: 1st prize, animation category

Animation festival of Roanne: Experimental Grand Prix

International animated film festival TOFUZI: Best Technique Award

Animasyros Animation Festival: TV & Commissioned jury prize award

CINETORO EXPERIMENTAL FILM FESTIVAL: Best experimental animation project